

鯺おこし



気持ちも新たに

会長 清水 剛志

この「鯺おこし」の巻頭原稿を考えさせていただき、都度、「コロナ禍が漸く落ち着き、明るい兆しが見られそう」と期待を込めた文章を書かせていただきましたが、それは、大きな波と波の間にいたような状況でした。今度は感染症法における感染の分類が5類となること、マスク着用についても個人判断に変化していくようです。今度こそ、新たな風景が見られるようになることを信じたいです。思えば、見えない恐怖に恐れおののいていた期間だったと思います。当然、肉眼では見えないウイルスというものですから恐怖なのですが、ウイルスそのものにとどまらず「見えない」「具体で無い」ものに対する恐怖が私たちの心を締め付けていたように思います。

その昔、人は見えない恐怖を「鬼」としてとらえて、忌み嫌う反面で「敬い」「奉り」「畏怖」していました。節分の豆まきで「鬼は外！」と言って鬼に豆を投げつけ、悪いものをはらうようにしていますが、鬼は外からやってくるものではないのではと思います。むしろ、私たちの内側にある鬼をはらうことなのではないかと思えます。

コロナ禍の間、見えないウイルスも本当に怖かったのですが、そのことによる取り巻く環境の劇的な変化

や、人々の関係の変化に恐怖を感じていました。見えないから怖い鬼では無く、人の中のある鬼が怖いのだと思います。そろそろ今度こそ新しい社会で、新しい環境のなかで気持ちも新たに生活していきたいですね。

委員会報告/研修報告

権利擁護委員会

【研修報告】

成年後見人材育成研修最終日（4日目）は、演習と修了試験を実施し、富山・石川・福井の3県で計33名の方が修了されました。富山県の修了者を対象に、社会福祉士の専門職後見人として活動するための「名簿登録研修」を1月29日（日）、サンシップとやまにて対面形式で行い、昨年度修了された方を含めて計6名の方が修了されました。今後、ぱあとなあの一員としてともに活動できることを楽しみにしています。受講者の感想を一部、掲載いたします。

- ・長い期間の研修でやり切った、やっとスタートラインに立てた、という思い。またいろいろ教えていただけたらなと思います。
- ・基礎研修を始めた時は本当にここまで到達するかなと思ったが、ここまで来たんだなと実感できた。第二の人生に向けてまた取り組んでいきたい。研修の中でいろいろな方と関わって、いろいろな考えに触れることが出来て良かったなと思います。
- ・基礎Iの時はまだコロナになっていなくてみんなと対面で研修ができたが、コロナになってここまで5年かかった。長かった。やっとここまで来たのでぜひ後見業務をやって自分の生きがいになるように今後も頑張っていきたい。終わったけどドキドキする。
- ・5年かかった。Zoom研修で受けるのが不慣れで事務局に迷惑をかけたが、ここまで続けられてよかった。今日は天気が優れなかったが、最後にみなさんと会えたのはうれしかった。いろんな勉強を続けて受任できるようになりたい。ありがとうございました。
- ・長く研修に参加させてもらってありがたく思った。基礎3で一緒だった方がもう受任されている。今の仕事をしながら受任できるかわからないが、自分も一歩踏み出せたらなと思う。
- ・仕事上、いろいろな研修に参加しているが、基礎1からここまで本当に実りのある研修だったと思う。仕事上、後見につなぐ仕事が多いので自らができればなと思いました。



【セミナー報告】

1月31日(火)、「2022年度 成年後見活用実務セミナー」をオンラインで開催し、会員47名、非会員45名の計92名の方が権利擁護について学びを深めました。今年度も1部2部形式で行い、1部は、申立実務演習ということではあとなあメンバーが講師を務め、申立セットを用いて実際の書類の書き方等を説明しました。2部は、新潟大学法学部法学科教授の上山泰先生をお招きし、「第2期成年後見制度利用促進基本計画から見てくる今後の権利擁護のあり方」と題し、ご講演をいただきました。たくさんの方に受講いただきありがとうございました。受講後の感想を一部掲載いたします。

- ・申立て時の「本人情報シート」の活用方や医師診断書の内容が意思決定支援の考え方を踏まえたものに大きく変わった点など分かりやすい説明を受け、とても良かった。中核機関の役割についてはおぼろげながら見えたが、具体化が図られるまでかなりの時間がかかるのかなと感じた。
- ・今の制度や書式などについて知ることができ、知識がアップデートされて良かったです。
- ・丁度、申立の支援の真っ最中なので、書き方の紹介もありがたかったです。身寄りがなかったり、いても協力いただくことが難しい方とかを担当することも多く、成年後見の利用につなげたいケースもあるので、今後の支援の参考にさせていただきます。
- ・第2期基本計画の内容が分かりやすく説明していただいた。
- ・上山先生のご講義では、過去の統計の詳細な分析が分かりやすかったです。また、今後の地域共生社会における本制度の立ち位置にまで触れていただき、新たな視座を得ることができました。大変参考になる講義でした。
- ・身寄りもなく判断能力が低下してきている患者様も増えてきており、成年後見人制度についてもっと詳しく勉強したく思いました。
- ・今日初めて「検察官申立」という方法を知りました。どういう方の場合に検察官申立になるんだろう?と置いていたら、最後の質問で謎が解けました。ありがとうございました。
- ・成年後見制度のスポット利用の可否や、他の支援による対応の可能性も踏まえて本人にとって適切な時期に必要な範囲・期間で利用できる様にすべきであること、必要性・補充性の原則の導入など、本当によくわかった。
- ・本を読んだり、言葉からの理解は難しいので、こんな時こそ、研修に参加した意味があったと思った。
- ・①本人を支える既存の支援チーム、②後見人が入って権利擁護支援チーム、③権利擁護支援のチームの自立支援と、流れはよくわかったが、自立支援と言われるとまた、自己責任か?と不安に思った。
- ・上山先生の講義では、成年後見制度は権利擁護支援の一部であり、総合的な権利擁護支援を充実させることが重要だと改めて感じた。質疑応答にあったケースにおいては、自分の仕事においてもあり得るケースであり、対応に向けた助言を上山先生はしてくださったが、市町村規模でそのようなケースがあった際どう動くことができるのかを多職種で考える必要があると感じた。
- ・上山先生の講義で、第2期計画の内容を確認することができ良かった。年々必要な方が増えており、

柔軟な運営体制が検討されていくことは今後大切なのだと思います。

- ・法定後見の 3 類型をなくすとか見直すとかいう議論は理解できます。利用者にとって、より身近に使える法制度になれば、恩恵を受ける方も増えると思うので。
- ・第二期計画の背景や中核機関を交えた支援体制について、改めて認識する機会になりました。日頃、親族関係の希薄化を痛感しつつ、成年後見制度を利用することの必要性を見極めること、地域共生社会の中で本人の思いを具現化していけるよう支援していくこと等々、意識して対応していきたいと思いました。



【私のお勧め本】

このコーナーでは会員のお勧めの本や、思い出の本などを紹介しています。

金井 真由子

『ゆく川の流れは、動的平衡』 福岡伸一 著

まさか！のタイミング（基礎研修受講中）で鯰おこしの原稿依頼を受けてしまった。オススメの本、何にしよう…そうだ、ちょうど今借りている本を紹介させてもらおう。職場の方に『なんだかやさしい気持ちになれる本ですよ』と借りた本です。福岡伸一先生は生物学者で、このエッセイには自然、芸術、歴史、生物、私の嫌いな昆虫類も沢山出てくるけれど、どれも科学的根拠に基づいてわかりやすく、知識が深まります。こちらは朝日新聞に連載されていたものだそうで、1 コラムが短く、パラっと開いたページから読めるのがまた良いところです。

タイトルにもある「動的平衡」とはいろいろ考えさせられる概念です。まさに今置かれてるコロナ禍にもいえることでしょう。変わらぬことを維持するために変わり続け、またバランスを求めること、これは対人援助に於ける支援の中でも何か通ずるものを感じます。読み手によっても読む時期によっても受ける感銘や影

響が異なる、そんな文が綴られています。自分では絶対に手に取らないジャンルの本だから気分転換にもなり、勧められてとっても良かったです。一冊の本も一期一会、これを読んだ誰かにも手に取ってもらえるきっかけになるといいな。

『エルマーのぼうけん』

ルース・スタイルス・ガネット 著者 ルース・クリスマン・ガネット 画家 渡辺 茂男 訳

ケアマネジメント高岡 永野 美江

エルマーのぼうけんは、初版が 1963 年、現在は 167 版です。幼児の私が、母親に買ってもらった本です。現在手元にある本は近年、自分で買いなおしました。エルマーの冒険 3 冊シリーズです。これが大人買いというものでしょうか。最初は母が読み聞かせをしていたものでしたが、妹が産まれて読み聞かせはできなくなったのでしょうか。この本はいつも私のそばにありました。

物語です。ある冷たい雨の日、エルマーは年老いた猫を自宅に招き、3 週間の間地下室で温かいミルクを猫にあげます。猫は体力を取り戻しましたが、母親に見つかりエルマーは鞭で打たれ、猫は窓から放り投げられます。大切な猫がされたことや、自分が受けた罰を忘れたかったのでしょうか、楽しい事を考えようと「僕は大きくなったら飛行機を持って、どこでも好きなところへ飛んでいきたい」と猫に話します。猫は大きくななくても空を飛べる方法があるとエルマーに話します。猫が二年前元気だった頃、世界を旅していた時、竜の子どもが動物たちに捕らえられ、過酷な労働を課せられているところを見た。エルマーは竜を助け、竜の翼に乗り空を飛べたらと考えます。エルマーは竜を助けに行く準備をするのですが、その旅の持ち物に当時の私は夢中になりました。リュックに詰め込むものはチューインガム、桃色の棒付きキャンディー 2 ダース、輪ゴム 1 箱、黒いゴム長靴、磁石ひとつ、歯ブラシとチューブ入り歯磨き、虫眼鏡 6 つ、先の尖ったよく切れるジャックナイフ 1 つ、櫛とヘアブラシ、違った色のリボン 7 本、『クランベリー行き』とかいた大きな空の袋、着替えを何枚か、そして食料。エルマーはピーナッツバターとゼリーを挟んだサンドイッチ 25 と、リンゴ 6 個でしたが……。

それらをすべて集めるのは困難で、ほとんどは省略し替りのものをリュックに入れていました。当時、実家は文房具店だったので、輪ゴムや事務用のナイフ、磁石、虫眼鏡は揃えることができましたが、お店から消えていった 6 個の虫眼鏡で「犯人は美江だな・・」と足が尽き、幼児の冒険は実現することなく祖父からお灸をすえられることになるのです。エルマーがどんな冒険をしたか、興味のある方は大人買いでお読みください。

現在では無くなってしまった実家ですが、当時読んでいた児童書を書店で見つけたことから、紐をほどくように失くしてしまった家族の思い出があふれてきました。



事務局からのお知らせ

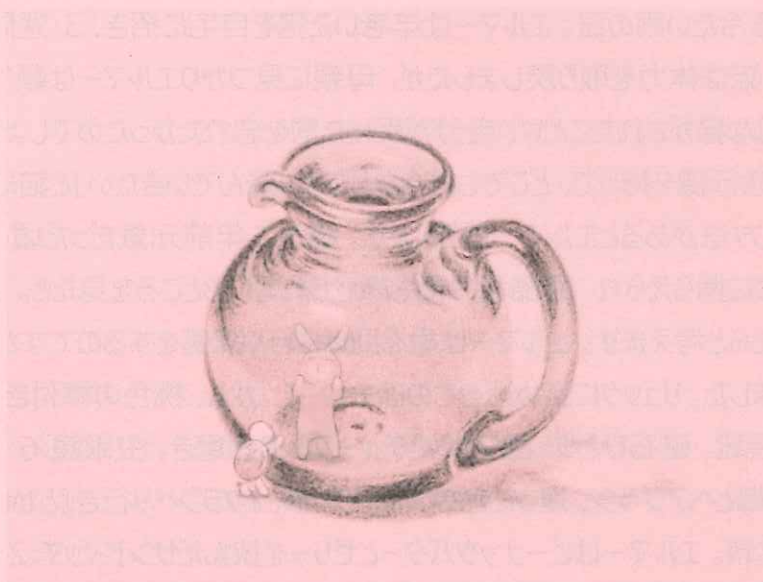
事務局へのお問い合わせは、E-mail またはお電話でお願いいたします。

(水・土日・祝祭日を除いた 10:00～15:00)

E-mail : toyama.csw@gmail.com

Tel/Fax : 0766-55-5572

会員数 499 名 (令和5年2月28日現在) 研修を受け自己研鑽に努めましょう。



編集後記

鯽おこし 109 号をお届けいたします。年間 3 回の発行をしてきました鯽おこしですが、原稿を寄せて下さった皆様ありがとうございました。がんばる会員を応援する鯽おこしを目指していましたが、この姿勢は変わらず新年度も続きます。原稿依頼の際は宜しくお願いします (懇願)

109 号印刷・発送はワークハウス連帯さん、イラストは chiaki さんです。ありがとうございます。(永野)